

令和8年産 麦類技術情報 第4号

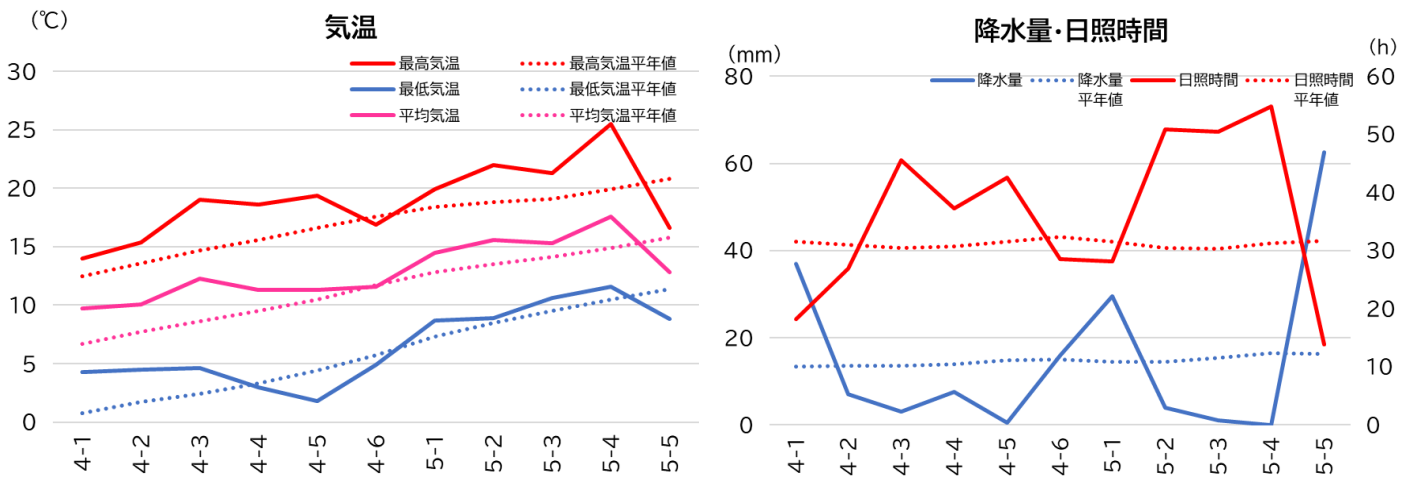
令和8年6月1日 宮城県美里農業改良普及センター

Tel 0229-32-3115 Fax 0229-32-2225

URL <https://www.pref.miyagi.jp/site/misato-index/>



1 気象経過 (4月上旬～ アメダス鹿島台、下図1)



4月以降は、一時的な低温はあったものの、期間全体としては平年より暖かく推移しています。播種以降、降水量が少なく、日照時間が多い傾向が続いています。

2 生育調査ほ生育概況

表1 小麦生育調査ほの生育ステージ

品種	地区名	区分	播種日	幼穂形成始期	出穂期	(見込み)成熟期
シラネコムギ	大崎市鹿島台	本年値	11月29日	3月30日	5月7日	6月21日～26日
		前年差/前年値	-1日	-5日	-3日	-5～0
夏黄金	涌谷町	本年値	11月11日	3月30日	5月6日	6月20日～25日
		前年差/前年値	6日	3日	-2日	-3～+2
		平年差/平年値	12日	5日	2日	0～+5

※ 平年値は過去5か年の平均。(シラネコムギは平年値なし)

※ 見込み成熟期は、出穂期と登熟日数の目安(45～50日)から算出。

生育調査ほでは、前年より数日早かったものの、概ね平年並みに出穂期を迎えました。管内全体では、大麦は4月25日頃が出穂ピークとみられ、6月5～10日頃に成熟期に達するとみられます。小麦は平年並みの5月5～7日頃が管内の出穂ピークとみられ、6月19～26日頃に成熟期に達するとみられます。梅雨時期の刈取作業となる見込みです。晴れ間を縫っての作業が円滑に進むよう、早めに準備を進めておきましょう。

3 今後の管理について

麦類は収穫適期が短く、収穫時期は品質に大きく影響します。栽培管理の最後の仕上げとして、適期収穫に努めましょう！！

◇穂水分測定による小麦の成熟期判定

小麦では、出穂後 30 日頃から1日あたり約 1.5% ずつ穂の水分が減少するため、穂の重さから成熟期（水分約 40%）までの日数を予想できます。（図 2）

晴天時に穂を採取し、乾燥前後の重さから水分を算出

$$(測定水分\% - 40\%) \div 1.5\%/日 = 成熟期までの日数$$

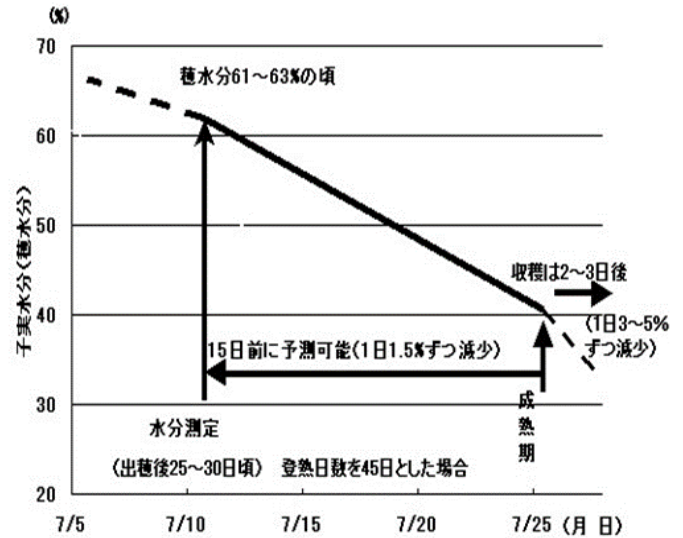
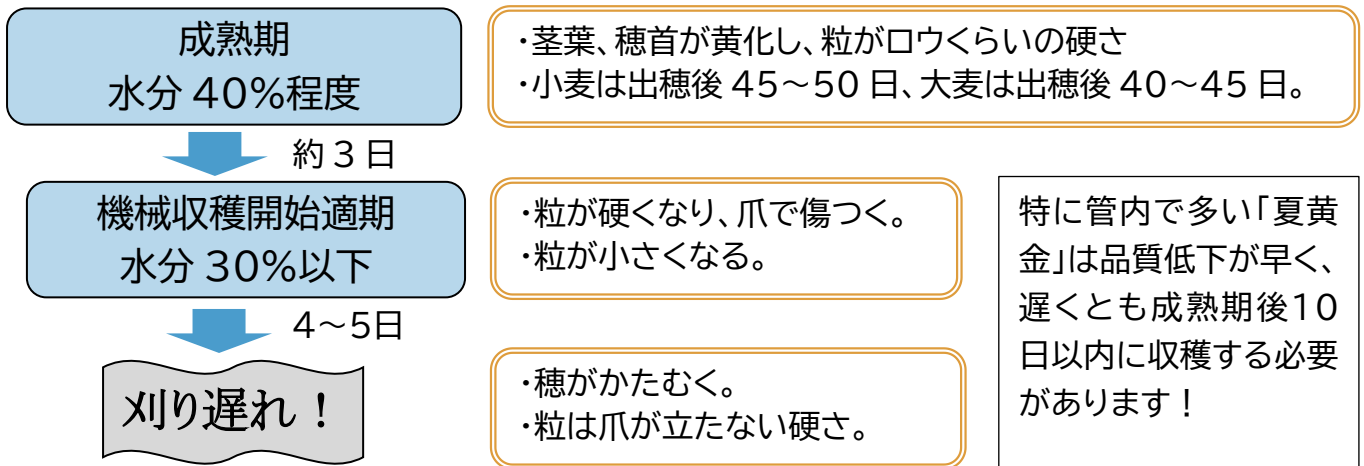


図2 成熟期および収穫適期予測の模式図(長濱一部改)

◇成熟期と刈取適期について

早刈りでは選別不良や損傷粒が発生し、刈り遅れでは倒伏や穂切れによる収量損失、赤かび粒や穂発芽粒などにより品質が低下します。

また、収穫期は梅雨時期であるため、作業日数の確保自体が困難でもあります。このため、麦類の収穫では、成熟期の判定と余裕をもった作業計画が重要になります。



◇赤かび病について

赤かび病菌が産出するかび毒、デオキシニバレノール(DON)は人畜に中毒症状を引き起こすため、農産物検査規格での赤かび粒混入限度は「0.0%」と厳しく設定されています。

収穫前にほ場ごとの発生状況を確認し、発生が多いところでは刈り分けしましょう。また、「適期収穫」と「収穫後直ちに乾燥」することが収穫物への赤かび病の蔓延を防ぐため重要です！



右図: 赤かび病の穂 (みやぎの大豆・麦類栽培技術指導指針(宮城県)より)